

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査 調査結果の概要

はじめに

平素は本校教育活動にご理解、ご協力を賜り有り難うございます。

さて、本年度4月18日に3年生を対象とした「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月31日に、個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、数学・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図って参ります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にして頂きますようお願い致します。

令和5年11月  
(2023年)

## I 教科に関する調査結果の分析

### 国語

#### (1) 調査の概要

本校正答率は全国値を下回っていました。



#### (2) 学習指導要領の各領域等における成果と課題

##### 【話すこと・聞くこと】

「目的や場面に応じて質問する内容を検討する」問題は全国値を上回りました。「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問する」「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる」問題は全国値に近づいたものの、やや下回りました。また、記述式の問題は無回答率が高かったです。

##### 【書くこと】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題では、全国値を上回ったものもありました。しかし「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」という問題については、無回答率も高く、課題がありました。

##### 【読むこと】

全国値を下回りました。この分野でも、記述式の問題は無回答率が全国値を上回りました。

##### 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

全国値を下回りました。特に「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」問題については、全国値と大きな差がありました。

#### (3) 今後の改善点について

本校では、ペア活動や班学習を積極的に取り入れた授業を多く展開しています。「話すこと・聞くこと」では、その成果が出ていました。また、語句や漢字の知識についても、小テストを定期的に行うなど定着にむけた工夫をしており、その成果が今回の調査でも発揮されました。しかし、課題の残る分野も複数ありました。

まずは「書くこと」です。文章を書くこと自体に慣れていない生徒も多いので、新聞の記事を写すなどの活動を取り入れたいと思っています。また、それと並行して原稿用紙の使い方など、書くための基礎的な知識の定着も図っていきます。

次に「我が国の言語文化に関する事項」です。古典分野については、わかりやすい教材を準備したり、当時の生

活などの文化的な背景を伝えたりすることで、学習することへの苦手意識をなくし、学習意欲が高まる指導をしています。

文章を読み自分の考えをまとめる力や、そのための語彙力の向上は、小学校とも連携し継続して取り組んでいます。また、これらの力は国語だけでなく、特活・総合・道徳を含めた他教科でも必要とされる力なので、教科の特性を生かしながら工夫して指導していきます。

今後も課題がみられた分野に力点をおいた授業づくりをしていきます。



## 数学

### (1) 調査の概要

本校の正答率は全国値を下回る結果でした。

### (2) 学習指導要領の各領域における結果と課題

#### 【数と式】

「数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる問題」は全国値を上回りました。一方「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見出し、説明できるかどうかをみる問題」は全国値を下回りました。

#### 【図形】

「空間における平面が同一直線状にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる問題」「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題」「条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、振り返って読み取ることができるかどうかをみる問題」は全国値を下回りました。

#### 【関数】

「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題」は全国値とほぼ同じでした。一方「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる問題」「事象を理想化・単純化することであらわされた直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題」は全国値を下回りました。

#### 【データの活用】

「累積度数の意味を理解しているかどうかをみる問題」「四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題」は全国値を下回りました。

### (3) 今後の改善点について

#### 【数と式】

数や整式の四則演算は理解できています。しかし問題場面における考察の対象を明確に捉えるようにするために文字を用いた式と具体的な数を用いた式とを関連付けながら、文字を用いた式がどのような事柄を表しているか理解できるような活動を行っていきます。

#### 【図形】

結論を示す証明の流れやそのために必要な仮定や図形の性質がどのように用いられているかを確認する場面を設定し、証明の根拠となる性質を指摘できるような活動を取り入れていきます。

#### 【関数】

与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるような活動を取り入れていきます。また、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるような活動も取り入れていきます。

#### 【データの活用】

累積度数や四分位数、箱ひげ図などデータを活用していくために必要な知識を身に着けさせるとともに、複数のデータの分布からその傾向を分析できるような活動を取り入れ、その理由を数学的な表現を用いて説明できるような機会を増やします。

## 英語

### (1) 調査の概要

本校正答率は全国値を下回りました。

### (2) 学習指導要領の各領域における結果と課題

#### 【聞くこと】

「情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題」および「社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる問題」において、全国値を下回る問題がありました。

#### 【読むこと】

「文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題」「社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる問題」は全国値を下回りました。

#### 【書くこと】

「『相手の行動を促す』という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる問題」「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題」は全国値を下回りました。

### (3) 今後の改善点について

#### 【聞くこと】

情報を聞き取ることに関してはできていない問題もあるので、社会的な話題を聞き取る能力をつけるために様々なトピックの聞き取り活動を行っていきます。

#### 【読むこと】

文と文との関係に注目しながら読む活動を行っていきます。また、社会的な話題を取り上げている文章を読む活動を行っていきます。

#### 【書くこと】

相手の状況に合わせた文章やまとまりのある文章を書く活動を行っていきます。また、自分の考えを書いて表現する活動も行っていきます。

## 2 生活習慣や学習環境などに関する調査の傾向

～生徒質問紙からの分析～



### 【生活習慣】

『朝食を毎日食べていますか』の質問に対して、「あまり食べていない」、「全く食べていない」の回答が全国値を上回りました。『同じくらいの時刻に寝ていますか』『同じくらいの時刻に起きていますか』の質問に対しても「あまりできていない」という回答が全国値を上回る結果となりました。

習い事などによる影響も考えられますが、生徒からは“夜遅くまでゲームをしている”“深夜までスマホを触っている”という声も聞き、その要因の一つにもなっているようです。より良い生活習慣の確立に向けて、ゲームやスマホの使用に関するルール作り、使用改善に向けた声かけを家庭でもお願いします。

### 【自己肯定感・自尊感情】

大半の生徒が「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答しています。生徒たちの活動の様子を見ても“自分”や“仲間”と上手く関わり合いながら学校生活を送っている場面が多いです。“いじめをなくしていく意識”は非常に高く持っており、吹田市全体で実施している「いじめ防止授業」の成果が見えています。

一方、自己肯定感についての肯定的な回答が全国値を下回っていて、生徒自身が自分たちの“できていること”“できていないこと”を把握できていない様子がわかります。また、人間関係作りにも課題があることが見えるので、“自分”や“仲間”が何をきっかけに、どのような気持ちになっていくのかを交流させる“人間関係作り”のスキルを向上させる場面を設定し、実践させ、自分に身についた力が実感できる活動を取り入れていきます。

### 【家庭学習】

学校が休みの日に全く勉強をしない生徒が全国値を上回っています。家庭で学習に取り組む時間の少なさについては本校の大きな課題であると捉えています。教科の宿題をはじめ、自学ノートなどを通して家庭学習の大切さを伝えてきたことで、2学期は学校が休みの日に家庭学習をしている生徒の割合は増えてきています。今後も引き続き、粘り強く指導をしていこうと考えています。

### 【家庭・地域社会】

地域行事には多くの生徒が参加しており、自分たちの地域への愛着を感じる結果となりました。

「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いませんか」という質問に対しては、肯定的な回答が全国値を上回る結果となっています。自分が住む地域への思いを強く持ちながら、外国について興味を持ち、交流を深めていこうとする生徒たちの姿がうかがえる結果となりました。今後ますます進んでいく、国際化社会に生きていく子どもたちにとって必要な資質・能力なので、大切に育んでいきたいです。

### 【ICT 機器の活用】

「ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に対しては肯定的な回答が多く、全国値を上回りました。授業でも ICT 機器を活用したものがスタンダードになりつつあります。しかし、実態としては授業でも、家庭学習でも自分で ICT 機器を活用するという選択をする生徒は多くありません。学校としては「ICT 機器を使うことが目的」にならないように「ICT 機器を活用することでよりよく学べる」という実感を明示的に指導する必要があると考えています。

## 3 おわりに

本調査結果の分析より、学習における基礎・基本的事項の定着が全体的な課題としてとらえることができます。一方で、大半の生徒は実施された教科の学習は将来大切だと回答し、学習の意義は理解しています。さらに、「授業の内容はよくわかりますか」という質問にも大半の生徒が肯定的な回答をしています。これらのことを踏まえると、学習への意欲はあり、日々の授業にも前向きだが、時間をかけて基礎・基本を自分のものとしてできていない傾向がうかがえます。

そこで学校全体としては今後、より分かりやすい授業の工夫を全体で協議していくとともに、適切な課題、宿題等を各教科で吟味し、継続的に学習の支援を行っていくことを検討しています。それには家庭学習の時間も大切になります。これまでに引き続き、ご家庭と連携をしながら生徒の生きる力を高めていきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。